

館報

おおくま

おもな内容

- 2面…大熊町の教育方針
- 3面…ゆとりと充実をめざす教育
- 4面…母親学級に参加して
- 5面…現代社会における「祈り」
- 6面…文芸
- 7・8面…みんなの広場

発行編集 大熊町公民館
印刷所 新栄社写真美術印刷



幼稚園の砂場

水をはこぶ子
砂をはこぶ子
如露をもつ子
せつせと手伝う子
五月の光ふりそそぐ
砂場に
ほくらは夢を描くのだ

お山がきたたら
木を植えて
お池がきたたら
お水を入れて
緑の風の流れ行く
砂場は
ほくらの夢の国
できたぞ砂場に
お山も川も
お池もできた
それはほくらの
つくった町だ
砂場は
ほくらのふるさとだ

(写真は五月四日
大野幼稚園で撮影)

昭和五十四年度 大熊町の教育方針について

教育長 大田芳一郎

昨年度の教育基本計画は、町議会並びに教育関係者のご協力により円滑に進展しましたことは、誠に同慶に堪えない所であり、関係者の皆様に御礼を申し上げる次第です。大野小学校改築問題については、諸般の事情により、着工の実現を見なかつたことは残念でありました。さて、昭和五十四年度の新学期も一斉にスタートいたしました。この新学期当初にあたり、今年度の教育基本方針を申し述べたいと思います。梶は住みよい県土づくりを目指し、県政運営の基本方針として「教育文化の振興」を第一にかかげ「物から心へ」の県民意識の高揚策を示されま

た。本町においても「物から心へ」の教育理念に基づき、昭和五十二年度より、道徳教育と生徒の健全育成のための町民意識の高揚につとめて来たところであり、問題児と呼ばれる生徒の発生を見なかつたのは、一応着実な教育効果の現れだと信じております。

①学校教育の充実
児童生徒の学力
体力の向上と人間性の育成
各学校は、適切な教育計画を立て、学校生活がゆとりある、しか

るべき生活を送るべきである。また、各学校の教育環境と設備に

ついて年次計画により、充実を図って行きたいと思ひます。

幼児教育について
大熊町の幼児教育は、幼稚園と保育所間の連携を図り、適切な就園指導をしているところであり、町立幼稚園就園者は、四才児一四四名、五才児一三五名と増大しております。保育所への入所児(四・五才児)二十五名を加えると殆ど一〇〇%就園することになり、文部省指導の「五十七年度において保育所に収容しない四・五才児全員を幼稚園に。」は一応達成されることとなりますので、今後は教育内容の充実を図って参ります。

社会教育について
前述したように「物から心へ」の教育理念により、学校教育、社会教育の連携を図り、教育の実効をあげる計画であります。また、家庭教育学級等、各種学級の充実を図ると共に各種講座やスポーツ活動を通して、社会教育をさらに振興させたいと思ひます。

町史編纂について
五十二年十二月に、大熊町史編集に着手して以来、はや一年四か月が経過しましたが、町議会のご支援と町民各位のご理解、ご協力により、順調に進められております。しかしながら、各資料の収集には意外と日時を要している現状です。将来の大熊町のあるべき姿を考へる時、歴史的にさかのぼって過去の郷土の姿を考察してみる必

要性と、祖先から築いて来た各種遺産を子や孫の代にまで伝えてゆくと云う観点から、「地域住民の立場に立った自治体史。」を目標としておりますので、町民の皆様方のご協力とご叱声をお願い申し上げます。以上、今年度教育重点事項の柱を申し述べまして、御筆いたします。

②教育関係者の
資質と指導力の向上
教職員をはじめとする教育関係者は、教育の現代化に即応して、研究意欲を高め、資質と指導力の向上を図り、名実共に専門職であるための自覚と使命感の確立に努めたい。このために、大熊町教育研究会の充実を図って参ります。

◆高令者大学(各会場は町公民館)
日時 五月十八日 九時
内容 高令者と社会での役割

◆家庭教育学級
日時 五月二十二日 十時
内容 これからの家庭教育

◆婦人学級
日時 五月三十一日九時三十分
内容 婦人と団体活動

学級あんない

現在、それぞれの立場で子どもの教育に精励されております。大野小学校(カッコ内は担任) 教諭 佐藤 則子(一年二組) 兼 室井 富枝(保健、給食) 兼 熊町小学校 校長 白土 一彦 教諭 山口 清江(四年) 佐藤ユリ子(三年二組) 佐藤里穂子(一年一組) 佐藤 勇人(三年一組) 大熊町中学校 教諭 吉田 作(一年B組) 体育担当 教諭 佐藤 洋子(二年C組) 国語担当 転出された方については、紙面の都合で省略させていただきます。

人事消息

社会教育指導員
市町村における社会教育の指導の充実を図り、時代の進展に即した社会教育活動を進めようと、文部省・県・町の三者が一体となり、町に社会教育指導員を設置して参りましたが、前任者の木幡キサさんが、三月三十一日で任期満了となり退職されました。したがって、四月一日から新たに、大野小学校長を退職された志賀敏男先生を、大熊町の社会教育指導員としてお迎えいたしました。今後は、公民館活動をより振興させるため、社会教育団体の指導をはじめ、各種学級の開催について指導されます。

小中学校教員
四月一日付で教職員の異動があり、町内の小中学校に次の先生方が着任いたしました。



ゆとりと充実をめざす教育

熊町小学校長 白土一彦



これまでの高度経済成長の体制に奉仕する人間形成から人間尊重の精神を基盤に考えて、複雑な現代社会へ生き抜く人間の形成、即ち健康にして幅広い知性的人間の形成を図ることに努める。

新しい教育課程の改善の三つの基本方針 一、人間性豊かな児童

清流

先日PTAの集会の時、ある人からこんな話を聞いた。

「私は仙台から当地に来た者ですが、仙台では、日曜日に親子そろって図書館で読書したものです。大熊町にも図書館が欲しいですね。」

私はいいことだなあと考えた。何んて羨しいことだろう。

三月末の休中のごとである。中一と小五の孫たちが公民館図書室で本を読んで来たと話してくれた。

どうかすると、現代人は余り

が不徹底になり詰めこみになり、その結果落ちこぼれや見切り発車の教育となり、豊かな人間性を育てる教育が失われたという批判である。こんどは、教材の適時性の再検討・学習方法の集約化・領域の整理統合・基礎的・本質的な内容を重視すると共に、児童の個性や能力に応じた教育が行われるようにすること。これに基づき実践することとして(一)学習指導の質的転換を図る。主体的な人間は児童の主体的学習からなければ育成されないわけだから、この教師中心の講義式学習から形成されないといえよう。(二)教科の内容精選を図る。従来の内容が程度が高く、分量も多いため指導

本を読まないようだ。時間がないからとか、疲れているからという。しかし時間はあるのではなく、つくり出すものであると思う。一日に何時間もテレビにしがみついているのは本を読む時間ではてこないNHKの鈴木健二アナウンサーは

読書のすすめ 館報編集委員 松本幸一

ある本にこう書いてある。

「テレビをみると物知りにはなるが、利口にはならない」と。利口になるには読書に限ると思う。「一日は二十四時間、これを四十八時間にすることはできない。自分で考えて無駄な時間をなくす

まなくたつてとなじると、死ぬま

それぞれの個性や能力差がある。それぞれに合った教育をする。これらの事を実践する上で大変大事な自然環境がある。現状での校舎・校地等はあまりにも簡素で画一的であって少なくとも夢のある環境であるというにはほど遠いものが多い。当校では恵まれた豊かな自然環境を学校教育活動に生かすべく創意と工夫によってこどもの生活に快適な場とし、こどもの夢を育て、こどもの夢をふくらませる環境は学校の教育目標を達成するのに大変役立つもので地域人の努力と熱意に敬意を表するものがある。

私には汽車にのる時、病院などに行く時、旅に出る時いつも本を持ってゆく。何時間待たされても本を読んでいると不思議に腹がたたれば充分。目が覚めたらずぐ起るしかない」と。

で是非この本を読みたいのでと答えた。これを聞いた中学生の子どもは、はじめて父親の偉さがわかったと書いてあった。読書人口が多ければ大熊町にも図書館をつくらせてくれると聞いている。多額の金をつかって図書館をつくっても利用する人が少なければ無用の長物になってしまう。

ある町議員さんがいわれた。「金も財産も失うことがあるが、知識は一生体について離れない」と。松本幸一



新しい

PTA役員

町立の幼稚園・小学校等のPTA総会が、それぞれ開催され、今年度の役員に次の方々が決まりましたのでお知らせします。今後はPTAを通し、子ども達の学習や生活のし易い環境づくり等の諸活動が行われます。会員相互のご理解とご協力をお願いします。

大野幼稚園(会員一六名)

会長 愛場 誠(下野上二)

副会長 八巻 良子(熊 一)

副会長 多門 和夫(下野上二)

熊町幼稚園(会員一四七名)

会長 田中美奈子(熊 二)

副会長 渡辺ツル子(熊 二)

副会長 米倉 久(熊 川)

大熊町保育所

会長 坂上 義博(大和久)

副会長 志賀 五郎(小入野)

副会長 草野 栄子(下野上二)

大野小学校(会員二五〇名)

会長 渡辺 博之(大川原二)

副会長 佐藤 明子(野上四)

副会長 関本 国子(下野上三)

熊町小学校(会員二四一名)

会長 末永 精一(熊 町)

副会長 梅田 実(熊 町)

副会長 吉岡 順(大和久)

大熊中学校(会員二九三名)

会長 島 覚(熊二区)

副会長 小野田正身(野上三区)

副会長 新長 一郎(野馬形)

お手本になる運転をあなたから!!

春の全国交通安全運動

子どもとお年よりへの
心づかいを



5月11日から
20日までの10日間

●自転車にも自動車やバイクと 同じ注意義務があります。

- 一時停止の標識のある交差点では、必ず、一時停止して左右の安全を確認すること。
- 標識がない交差点でも、一時停止または、除行して確認すること。

●ヘルメットで生命を守ろう。

●みんなで交通弱者を 保護・誘導しよう。

- 子どもとお年よりへの
心づかいを!!

母親学級に参加して



公民館での母親学級(家庭教育学級)は、たしか昭和五十二年の四月がスタートだったと思う。私は月一度開かれる母親学級を心待ちにし、日時がわかると同時にカレンダーに○印をつけ、ペンとノートを片手に公民館へ通う。今まで何人もの先生から講義を受け、先生の話すこと、ひとつひとつにうなづき、ペンを走らせ、プラスになることを学んで来ました。

リーダースクールで学んで



昨年八月に岐阜、今年三月には和歌山へ、前後合わせ八日間のスクーリングに参加し、スポーツ少年団シニアリーダーの資格を取ることができました。町から一人だったため、出発前は不安がありました。他県の参加者ともうちとけ、生涯わすれることのできない思い出となりました。

リーダースクールでは、「スポーツ少年団とは。リーダーとは」

子どもに対して、叱るよりほめの方が良いと言ったことも学びました。また、家庭でのしつけには一貫性が必要であることも勉強しました。先生方の講義だけではなく、スライドを見たり、ペーパーによる勉強もあり、たいへん有意義でありました。母親学級に出席するようになってから、今までの自分とは違う所をひとつだけ見つけました。それは、子どもを叱る時、自分の感情をおさえる事が出来るようになったことです。感情をおさえて叱るといふ事は本当に難しい事ですね。今まで、自分の子どもの事なら一十まで知りつくし

などの講義と班別に別れて行う自主活動、他県の人々や講師との交流など、時間的制約を受けながらも充実した研修を行うことができました。参加して感じたことは、活動が盛んな団ほど指導者がついていて母集団があり、父兄や地域の人々がバックアップしてくれていることです。そんなことからみるとわが町のスポーツ少年団活動は、自主的と言うよりは、受身の状態ではないかと思いました。小学五年生ごろから団員として登録され、ソフトボールに限られた者が参加し、全員が活動できないまま卒業して行きます。そして、中

ていると思っていた私……。母親学級に出席し、勉強しているうち、子どもの事を知らなかった自分が、恥ずかしくなり、また一からやり直しのつもりで、子どもの事に関しては一生懸命勉強しようと思っ

ています。

今までに勉強したノートを出して読みながら「アッあの時はこうすればよかった。」と反省する時もあります。学級での講義が終ると質問の時間があり、それが終ると子どもの教育に関するスライドを見て学級会は終了となる。公民館を出る時、私はいつも思う。「家庭教育学級に出席して良かった。」と。

猪井純子(下野上二区)

学校では、部活動そのものが団として登録されているようで、ほんとうの少年団活動とはちがった活動のように思いました。

このような中で、暁スポーツ少年団は、自主的に集って活動しようという人達の集りであり、目的に添った活動をしていると思えます。少年団活動とは、他人のいいなりでなく、自主的な活動を、リーダーを中心に、指導者の知識と意見をとり入れながら行うものです。最後に参加して本当に良かったと思います。全国に友達ができました。互いにもう一度再会することを約束して別れてきました。

石橋利広(暁スポーツ少年団長)

現代社会における「祈り」

三月十七日風もなくのどかな春日であった。父が大河原の観音講に招かれたので車の運転手兼カメラマン？として行く機会を得た。早春の野山はうららかに小鳥のさえずりが深い静寂の中にひびきわたり平和そのものであった。

お母さん、おばあちゃんに手をひかれた子どもさんたちの姿が愛らしい。小さな手を合わせて石仏をおがんでいる。甲子塔、十六夜塔……等の石仏は黙して語らずとも歴史の重みを感じさせる。

きくところによると以前は大変さかんで子どもの数が多かったという。今は七人にへってしまいいどもの数も少なくなつたとあるおばあさんは嘆いていた。

でもこの観音講はどんな時代がこよともいつまでも後世に伝えたいもの、という強い願いがその

四月一日より大熊町社会教育指導員として公民館に勤務することになりました。社会教育の基礎は一人一人の自発的な学習意欲であり、その学習をみたくすよう学習の機会や場をできる限り豊富にしなければならぬといわれていますが、公民館においても各種の学級講座等を開放し、年々活動内容を充実し、成果を挙げておりますことは喜ばしい次第であります。ま



ごあいさつ
社教指導員 志賀敏男

うだ」といわれていますが公民館の図書室には成人向き子ども向きの図書を年次計画で購入し一人で

静かな祈りの後姿から感じとれた。石仏のかかわりの中で石仏を見、祈りをささげる。祈りは神との対話、感謝をいただくことであるか。

私は前夜、茨城県にある超近代的な学園都市から帰った。高層ビルの林立する街は隣どうしの交流もなく、その大学で学んだ教育相談の事例も暗いことが多かったように思う。家庭内の不和、親殺し、子殺し、子どもの自殺等数えればきりがない。

現代は世をあげて教育期待の時代である。そして、親の子どもへの一方的な期待があまりに強過ぎるというところである。親の「熱い期待に圧倒されてどうにもならなくなっている子どもがいかにか多いことか。問題児の母親は極言すればほとんどが例外なく子どもに自

た各部落には公民館を設置され、それぞれ地域性を生かした運営を推進されており、本年度は部落公民館との連携を密にした活動を、「今の人は本を読まないよ

己の願望を投影している。そしてそれがあまりにも著しい場合、子どもはこうした親に対して問題行動や症状といった反応をもって答えなければならなくなってしまう(登校拒否)。母はおどしたりすかしたり、父は説教し、力にたよ

子育てを終えて

下野上 松本広美

五十才も過ぎ子ども達も成人に達し、やれやれと思うが、まだまだこれからが大変。小さいうちは目を離すな、手を離すなと育て、学校に入りやると手がかからぬようになったと思うと、受験、進学結婚と人づくりはなかなか大変です。万物の霊長たる人間は、一人立ちするまで二十年もかかると言われる。私の家に矮鶏が雌雄三羽ほどいて、去年のお盆すぎ孵化が成功し、八羽の雛が一群をなし飛

も多く本に親しんでいただくようにと、親子読書文庫の活用法等の計画も立てられておりますが、この道に関しては浅学であり職責の重大さを痛感しております。

誠心誠意職務に
精励し本町の社
会教育に微力な
がら努めたいと
思いますので皆
様の絶大なるご指導ご支援を節に
お願い申し上げます。

にでもと投げる。母は祈るしかない。

観音講の素朴な祈りと後者の追いつめられた暗い祈りを比較し、私は現代社会における「祈る」という心理について考えてみようという気持ちになった。

び歩くようになった。最初は箱をつくり、餌を与えながら観察していました。発達段階に応じ飛び立つ練習をし、外部からの危険を感じると、親鳥は雛をすっぽりと羽毛の下に入れ、一羽の親鳥になりすましています。外部の気配を察し徐々に雛を一羽づつ羽根の下からはなす。三ヶ月もして庭にはなすと、地上より五十センチ位の高さに飛び立つ練習をさせ、全部が出来るようになる一メートル位と、現在ではもう三メートルも高い納屋の横木にすらりと並んで宿るようになった。この親鳥の愛情と外敵より身を守る生活の訓練ぶりは素晴らしいと思いました。

子どもの養育も同じで、成長段階に応じた生活指導をし、例えたとだしい足どりであっても、自ら生きようとする自主性を大切にそつと後で見守ることの出来る余裕を持ちたいものである。館報の前号に志賀さんが、親の愛情は惜しみなく捧げたい。ただし、甘えさせることは違うと。子育てを

考えた者の反省として、私も大変考えさせられる言葉でした。いつも心にかけてながら振りまわされてきたのが、親の姿ではないだろう

少年ソフト大会

・とき 6月10日(日) ・ところ 熊町小学校庭
参加資格…町内の小学生(町民体育祭の部落区分による)
参加費…スポーツ傷害保険料として1人170円納入
申込…5月31日(木)まで公民館へ
※旧大野地区は大熊町公民館へ集合(バス)
詳しくは追って部落体育係を通しお知らせいたします。

町民卓球大会

とき 5月13日(日)
ところ 町スポーツセンター体育館
クラス別…中学生・高校生・一般(各男女別)
参加資格…町在住者及び在職者
参加費…体協会費、スポーツ傷害保険料200円
但し中学生は100円を申込時に

野上 木幡キサ



文 詩

チャボのタマゴ

熊小二年 こばやしゆり

チャボのタマゴ
 おとうさんが チャボを
 三ば かってくれた
 平七ロー カズコ ピーコ
 となまえをつけた
 犬ごやが チャボのいえだ
 おひがんに はじめて
 タマゴをうんだ
 うれしくて うれしくて
 小さいタマゴに
 ほほずりをした
 カミダナに 二つそろえた
 チャボさん ありがとう

先生の顔

大小四年 結城 充広

ぼくらの先生
 わるいことをすると
 もうじゅうのような すごい顔
 「ガオーッ」
 だれかが よいことをすると
 にこにこしてわらう
 「はははははあー」
 先生が 気げんのよいとき
 それは
 ぼくたちが よい事をしたとき

短 歌

小林かおる(新町)

みちのくにうつりて六年芹を摘む
 この幸を吾子と喜ぶ
 土を割りて露のとうはまろやかに
 きみどり色の小人の兵隊

北風止みて竹の葉落ちし荒庭の
 アネモネのつばみおもたかりしも
 ぱちぱちと枯れ葉の中の焼芋に
 幼き日日の想ただよう

声あげて虹鱒を釣る父と娘の
 春のうららの三つ森の山

俳 句

中山 安子

ペチャクチャと陽を踏みならし園
 児来る
 嫁の手の酔の香の甘さ雛の夜

菅野 ミヨ

鶯の声なめらかに歩を止めて
 花吹雪しばし病を忘れ立つ

結城 千代

花ぐもり祭合図の花火かな
 落椿児ら流し居り追かけり

木村 蓉子

掃き寄せて散り放題のやぶ椿
 語り合ふ人なき家の春炬燵

猪井 静枝

杏咲き大工の音のはずみけり
 遙かなる友の年賀に夫呼びて

飯田 良江

子育てを終りて淋しき日々となり
 畢生の仕事手さぐりてあぬ

はらからの住む古里を時折りに
 思ひ慕へりむなしき日には

主婦であり仕事を持てる友とくる
 中の沢にてうからら語る

茂吉門の高足であると記されたり
 佐藤佐太郎先生歌集紹介は

清清し苦を苦ともせぬ友ありて
 吾常日頃見習いてあぬ

川木 裕子

庭先の椿も日毎色めけり
 風なきて春告げ鳥のつづげさま

遠蛙眼ざし夜半の夜具重く
 白衣着て風花の midpoint 呼受く

孫達のにぎわふ声や沈丁花
 水仙の葉の青々とつぼみあり

きっちりと梨棚結いて花を待つ
 春場所東北力士目立ちけり

一人居り気にも止めざる春の塵
 それとなく立寄り花舗の春爛漫

こぞる灯の炭住遠く春の雷
 ともらざる炭住の門灯花ふぶく

小説

勿来の関

天明三年から五ケ年間、大凶作がつづいた。今から二百年程前のことである。ここ相馬の国では人口の三分の二を失い、六万石の禄高は一萬石にへってしまった。

この国をもとにもどすには北陸地方の真宗移民を招くしかないと考え、坊さんにたのんだり、人々をつかわして移民を募集することにした。しかし当時は、農民は自由に自分の土地を離れることは許されなかった。

富山県入善町の若い人たちはひそかに相談して、ある夜一団となって加賀の国から脱出することに成功した。

しかしいつ追手がくるかもわからないので、昼は山の中にかくれ夜道を急いだ。こうして山を越え川を渡って関東をすぎ、いわきの国勿来の関にさしかかった。

人々は裏道を通る気力も体力もなく、関門に来てしまった。役人は一団をとめて聞いた。「貴様ら、何処から来て何処へ行く。」
 「一団の団長格の人が答えた。
 「加賀の国から来て相馬に行きます。」
 「通行券を出せ。」
 「ありません。」

(故小田広氏談)



日常生活への反省

このごろの日本の陽気と風景は本当に過しよく美しい。春あり、夏あり、そして秋冬と四季それぞれ特色あり、なんてすばらしい国かと誇りに思う。そして部落の花見や祭りには、隣同志談笑し合い、ほろ酔いながら美しい桜を見ながら、手料理をつまむなどは最高の気分である。

しかしこんなすばらしい日本にも悪習慣とも思え、馴れに甘んじている家庭もあるように思える。日本人は大へん働く民族と聞くと、食事の時ぐらいいはどうかののだろうか。ある外国人が不思議

に思えてならない記録を読んだことがある。

日本ではテレビをみながら食事をしたり、新聞を読みながら食事をしていくが、この外国の人には不思議でならないというのだ。

つまりこの人の国では絶対にこんなことはしない。それは食事は家族の者が楽しく談合しながら、ゆっくりおちついて食べる。特に夕食は六十分〜九十分もゆとりをもって食べる。この時間こそ親子が対話をし、子どもの出来ごとや考えを聞き、親もまたいろいろと話す。そして親子の関係を深めた

ぎを与える場所のことだそうで、だからオアシスとは、ありがたいことばなのだ。

オハ、「おはよう」

アハ、「ありがとう」

シハ、「しんせつに」

スハ、「すみません」

このことばの根底を流れているやさしい心があれば、職場の中でよく自然に態度やことばになって出てくるように思う。そうすれば誰からも好感をもたれ上司からも可愛がられ、同僚からも親しみを

もたれてくることだろう。そして

り、子どもとのちぎりをかためているという。特別に家庭教育の時間を設けなくとも、この時の対話や話し合いの中で導いているのだという。おいしいごちそうに舌をうちながら何と楽しい時間でありうちとけた、憩いの場であろう。

最近の子どもたちが「○○○○しながら勉強」という、ながら族などといわれる傾向は多分にあり子どもたちも好んでいるようである。音楽を聞きながら……、テレビを見ながら勉強するというが、こんな一面からじっくり一つのことに集中できなくなっているのではなからうか。そして親子の関係も、心と心の交流も少なくなつて、非行に走つたりするケースもあるのではなからうか。少しの間を惜しむのもよいが自分の子どもたちである。

この外国人の人たちが不思議に思

失敗をくり返さない根性をもって

まじめに務めることであろう。

それから、たいせつなのは「ハイ」という返事であろう。テレビで高校バレーの試合をみていて、いつも感心し、すがすがしい気分になるのは、選手たちが監督さんにどんなことを言われても、「ハイ」「ハイ」と元氣よくはきはきとした態度をとっている。あの雰囲気は本当に好きである。返事ひとつで気分を損ねることだっただけ

ののだ。

一住民

青年会で会員募集

大熊町青年会（会長中島孝一 外会員三十一名）では、会員相互の親睦と自己教養の向上を図り、郷土を発展させるため、地域後継者として健康的な諸活動を進めており、ただ今会員を募

集している。
会費 年二〇〇円
申込 住所・氏名・生年月日・電話番号を大熊町公民館へ。
町公民館へ。
（電話二〇六五番）

えるのうなずけるように思う。

大川原一住民

ある手紙

が心をうたれたのは、切々と書かれた彼の人生感、これからの生き方のけなげさであった。（以下はその概要）

三月のある日、昔の教え子から次のような葉書が来た。（前文略）今日、語路の良い日と聞き、先生のご多幸を祈りつつ筆を走らせています。人は僅かな事にも何かを求めるもので、昭和五十四年三月二十一日（54321）何の意味もなさそうなごろ合わせの中にも何かを念じ少しでも通うものがあるればと……。私のために54321のスタンプのある葉書をよこしてくれた。私もニュースできいて知ってはいが誰かに出そう等とは考えてもみなかった。恥ずかしいと思いつつながら礼状を出したが折り返し届いた手紙を読み泣いてしまった。

彼は糖尿病から来た白内障のため失明寸前にあるとのこと、只これだけの事なら、お気の毒にと思

（浜本）

松の緑を

いつまでも

近頃常磐線あるいは六号線で上京する度に、屋敷の囲いや緑色の松林がいたる所で赤茶けて枯死している光景が目につきます。

この光景は南だけではなく、北の方にも見受けられます。南はいわき市から南部茨城県へかけて、北は相馬市北部から宮城県にかけて松の枯死状態が目につきます。浜通り地方は南北双方からはさみ打ちになっていて、徐々に被害の波が迫まって来ている。この松枯れの主な原因は、マツノマダラカ

ミキリ(通称マツクイムシ)での防除方法として薬剤の空中散布が各地で実施されているが、賛否両論があります。この松枯れ防止には、薬剤散布と枯損木の除去を徹底して、虫の移動をくい止める以外に方法がないと言われている。

幸い、当町にはまだ松枯現象は見当らないが、今のうちから何か対策の手を打てないものだろうか。また、桜の開花時期が過ぎて感じたことであるが、当町の各地には桜の大木がたくさんあるが、そ

の割に以外と花が少なかった。これはテングス病の発生によるものと思う。これらを取り除けば来年からまたきれいな花を見ることが出来るでしょう。

松の緑ときれいな花を絶やすことの無いように、私達一人一人が自分達の周囲を注意してみようではありませんか。

野馬形 K生

行政相談員に

井戸川清隆さん

四月一日から行政相談員として井戸川清隆さん(下野上五区)が

人言う、「それは金があるからだ。」と。果してそれだけの結果だろうか。

前の熊小の環境整備に当って、当時の佐藤会長は、家庭バレーボールの組織と活動強化をはかり、遂に今日まで数年間(一時第二位)

委嘱された。これは、行政管理庁が委嘱するもので、国や県などの行政執行に対する不満などについて相談に応じるものです。困りごとや悩みごとのある方は気軽に相談下さい。

館報編集委員を委嘱

昭和五十四年度館報編集委員に次の方々が委嘱されました。

松本幸一(下野上) 鳥 覚(熊)
鎌田清衛(小入野) 浜本レイ(夫沢)
志賀榮子(大川原) 木幡キサ(野上) 酒井正直(教委)

ものと感じられます。

現在の熊小のこのめざましい発展の陰にも、何よりも町民の方々の信頼と融和に富んだ精神、古きを大事にすると共に、新しきに向って科学的な進取の気象、その他各般に亘っての立派な心掛けの発動の賜ではないかと推察いたします。

そして、そうした町民の誇りの大きな役割を持つ公民館活動がまた他町村の範たるものがあることを思う時、むべなるかなと肯かれる次第であります。

願わくば、今後の大熊町民のため、あの立派なスポーツセンターの完備実現が、一日も早くらんこと祈って欄筆いたします。

編集後記

◆庭園には今を盛りとぼたんの花が女王のように咲き誇っている。館報第一〇五号をお届けいたします。ご愛読願います。

◆小学校の入学児童もはや一ヶ月そろそろ学校にも慣れてきたことと思う。黄色の帽子を冠り草履袋を振り廻しながらおぼえたの唱歌を白ずさみバス停へ急ぐ姿は可愛いものである。健やかな成長をお祈りいたします。

◆一〇五号より編集委員による「清流」欄を開設いたしました。日刊紙の「社説」「論説」的な欄です。ご期待下さい。

◆今月号の「清流」欄に「テレビをみると物知りにはなるが利口にはならない。利口になるには読書に限る」と、そしてまた「金も財産も失うことがあるが知識は一生体について離れない」と。

◆省エネルギーの時代がやってきた。テレビのスイッチを切り、車のキーをはずして読書の時間を生み出すことはできないものだろうか。それにしても一日も早く図書館の建設されることを望みたい。

◆館報の原稿をお寄せ下さい。要領は四百字詰原稿用紙一枚程度で一、主張、産業、教養、文芸に関するもの何でも結構です。

二、政治的な色彩をもたないもの、個人非難に属する抽象的なもので常に建設的なもの。



職場を去って思うこと

青田真男

大局の深いご理解ご支援、町教育委員会の適切なご指導と共に全く献身的なご奉仕ご活動を頂いた数々のPTAの方々のご協力の賜と、今更ながらの感激と敬服の念に馳られるばかりであります。

さて側聞いたところ、大熊町

の発展は凡ゆる面でもますます、大熊町の整備といい、またその体育活動といい、その他、町の公共施設、道路の整備農政開発、産業福祉、その他全部門に亘って近隣町村の羨望に価するものが感じられます。

大熊町を去って早や三年有余、あの熊小での四年間、環境緑化整備のために、PTAの方々が、年間を通して非常な努力をし、困難に打ち克って活動してくださったことが昨日のことのように思われます。そして後継のPTA、学校側が、これを継続して画龍点睛、遂に昨年は県知事賞、また本年は全日本特選という日本一の折紙を付けられるに到ったことは、熊小としてはもとより、大熊町の名譽であり、何よりもそこで学ぶ児童達のために、また地域ご父兄の皆さんのためにも慶祝に堪えないところであります。

これまでに到る背景には、町